

森のおくりもの10月



ツマグロオオヨコバイ（オオヨコバイ科）



10月は、台風24号による暴風と暑気で始まりました。8月に続き9月も雨の日が多く、気持ちのいい晴天は数えるほどしかありませんでした。なかなか外に出ないでいるうちにも、季節は着実に進んでいます。今、自然観察の森の川沿いでは秋のお花畑が見事です。秋の草花は春や夏の草花に比べて、一つ一つの花は小さいのですがたくさんの花がさきます。花の色は、赤、ピンク、黄色、白など種類によって様々です。秋のお花畑を見に来てください。

もうすぐ冬の小鳥たちも渡ってくるころです。 【写真・文 早坂 徹】



今の時期に見られる^{*}閉鎖花が沢山並んでいる様子を**たくさん並んだ槍**に見立てて名前が付いた「**センボンヤリ**」。閉鎖花は実が熟すとタンポポの綿毛のようなほわほわとした綿毛付きの実をつけて、風に乗って飛んでいきます。**やすらぎの道**の上の方と、**太白の道**で見られます。閉鎖花よりも、綿毛の方が目立ちます。春はかわいらしい花を咲かせていましたよ。春の結実は少ないからなのか、2回も種を作るなんて大変ですね。

春 ■閉鎖花のセンボンヤリ 槍のような形に見えますか？高さは30～60 cmまで伸びます。

縁が舌状花（め花）で中央が筒状花（両性花）
春の花茎は高さ5-20センチくらい

秋 先から筆のように綿毛（冠毛）がのぞいてきます。触ると気持ちいい。

実が熟すと綿毛が開きます。

太白の道では10月中旬になると、茶色いポンポンがたくさん見られます。

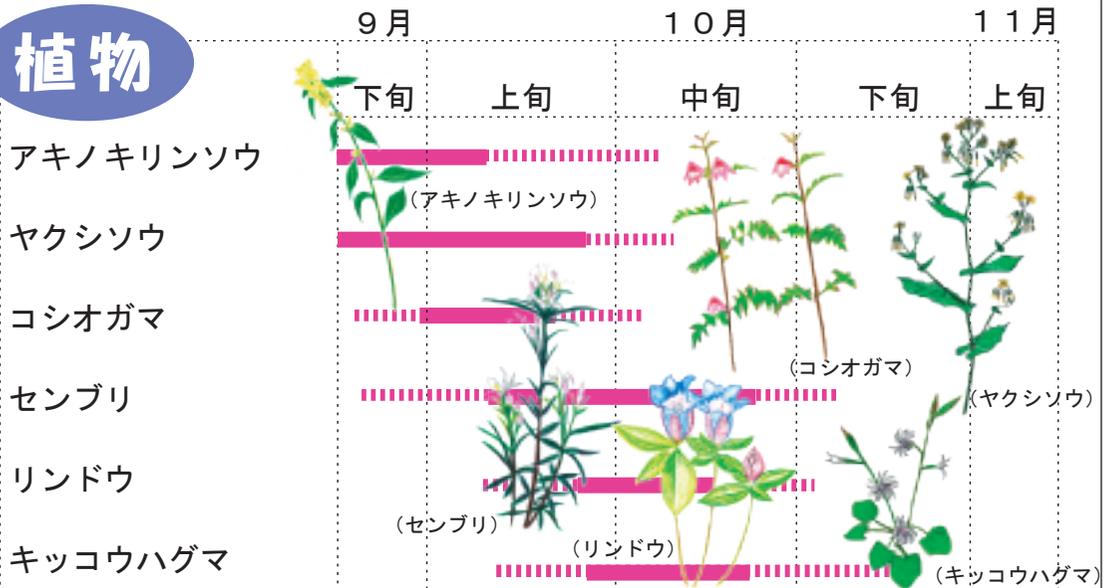
春と秋でどうしてこんなにも花の高さが違うのでしょうか、他花受粉でできたタネは親のそばに、自家受粉した種はなるべく親から遠く離れたところに飛ぶようになっている？！

【レンジャー：黒川周子】

* 閉鎖花・・・花は開かず、つぼみ内部でめしべが自花の花粉を受精して種子をつくる花

10月の生物ごよみ

植物

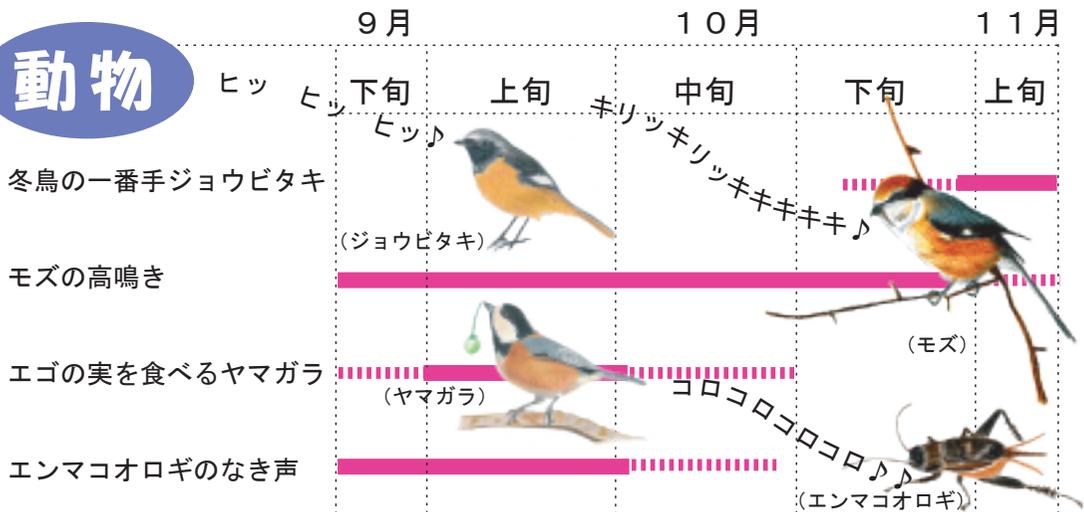


9月初めごろからセンター内で『カエンタケ』が発生しています。広葉樹（コナラ・クヌギ）の立ち枯れの根元から発生することが多く、食べると死亡率がとても高い猛毒キノコです。触れただけでも皮膚に炎症をおこすので絶対に触らないでください。自然観察の森内で確認されたのは今年が初めてで、※『ナラ枯れ』が多くなった今、今後も発生する可能性があるので注意が必要です。



カエンタケ 9月23日撮影

動物



【レンジャー：齋 正宏】

※ナラ枯れ コナラやミズナラといったナラ類などの広葉樹の幹に、カビの一種「ナラ菌」が入り、水の通りが悪くなって木が枯れる現象。菌がついたカシノナガキクイムシという体長数ミリの昆虫が幹に穴を開けて入り込むことで起こる。

森のことは

自然の様子やできごとを四字熟語やことわざなどに当てはめ、森で感じた言葉をお届けします

『椽（えん）の下の舞』

秋といえば芸術の秋、スポーツの秋、読書の秋など、何をするのにもいい季節になりました。この時期に森を歩くとキノコが目がいけます。キノコは夏にも多く出現しますが、俳句の世界では秋の季語となっています。

キノコのことを表すのにぴったりな言葉は何かと思い、キノコのことを調べてみました。キノコは菌類の一種、カビの仲間です。菌類が作る子実体（しじつたい）の俗称です。子実体とは菌類が胞子を散布するために作る器官の名称のことです。菌は菌糸（きんし）と呼ばれるものが本体で、枯れ木や落ち葉などの下で糸状の細胞の形で生活しています。普段目にするキノコは植物に例えると花に近く、生活史のほんの一時期の構造物のことなのだわかりました。菌類は動植物の遺体や糞などを腐らせて分解し、植物が吸収できる無機質に戻す「森の物質のリサイクル」をしている存在です。木材の化学成分には菌類にしか分解できない物質が含まれているのでとても重要な役割を担っています。

このことを知って感じた言葉が『椽の下の舞』です。これは法要で行われる供養のための舞で観客が見るものではないにも関わらず、舞手は努力して舞の技術を磨いたことから、陰で努力することや苦勞することを指す言葉です。このことから人知れず他人のために支える苦勞や努力をすること、またそのような人のことをいいます。これを分かりやすくするために「椽の下の力持ち」という言葉にも変化していったそうです。

キノコは何もしていないように思えますが、表の活躍はほんの一部。陰ではもっと努力しているという自然界の素晴らしさを感じました。

人間の世界でも、とても大事なことをしているのにひけらかさず、地味で目立たないように装い、人の目につかないところで重要な働きをしている人はとても素敵だなあと感じます。

【レンジャー：新田隆一】



森の「おとしもの」



その6 「食べたのだあれ？」

市道からセンターの敷地に入る入口の右手に石がありますね（下の写真左）、その上で見つけた「おとしもの」です（下の写真右）、何なのかわかりますか？



「ただのクリ！」とツッコミが入りそうですね、そう、これはクリの実のカーラです。ではこの「落とし主」ってだれでしょうか？ 最初に私が思いついたのは「（人間の）子供のしわざ」でした。ステッカーの切れ端やここにはないはずの木の实とか置かれた事があったから、またいたずらで置いたのかなと。でももう少し右上の写真をよく見ていくと…。

クリの実の外皮の上あたりに細かく裂いたような切れ端が沢山ありますね、クリの渋皮つまり内皮でした、子供のいたずらにしては手が込んでいます。おそらく「落とし主」はこの場所でクリの外皮をむき、取り出した実の渋皮もきれいにむいて中身を食べたのでしょう。「リス」？それとも「ネズミ」？その翌々日の朝から観察をしていたところ、目撃した生き物はニホンリスでした。多い時は朝7時から8時の間に7回石の周辺で往復するのを確認しました。そういえば以前ここにはリスのクルミの食痕もありました。どうやらここはリスの“モグモグポイント”だったようです。

8月中旬からセンター周辺で観察できたリスの姿も9月下旬になるとだんだん見られなくなってきました。近くのオニグルミやクリの実がなくなったからでしょうか？

【レンジャー：木田秀幸】



10月のイベント&お知らせ

◆きのこ観察会

10月13日(土) 10:00～11:30
 専門家とキノコを楽しく観察します。
【定員】 20名
【持ち物】 飲物、雨天時はカップ
【申込み】 10月6日(土) 午前9時から
 電話で受付〔先着〕

◆太白山の秋をたずねて

10月20日(土) 10:00～15:00
 紅葉の始まる太白山をゆっくり登ります。
【定員】 20名
【持ち物】 昼食、飲物、雨天時カップ
【申込み】 10月7日(日) 午前9時から
 電話で受付〔先着〕

◆釣取山ネイチャーウォキング

10月27日(土) 10:00～15:00
 原生林の雰囲気を楽しみながら紅葉の釣取山を観察して歩きます。
【定員】 20名
【持ち物】 歩きやすい服装と靴、帽子、
 昼食、飲物、雨天時はカップ
【申込み】 10月8日(月) 午前9時から
 電話で受付〔先着〕

◆紅葉の蕃山を歩こう

11月10日(土) 9:30～15:30
【定員】 40名(小学生以上)
【持ち物】 昼食、飲物、雨天時雨具
【申込み】 メール又は往復葉書に
 ①住所②氏名③年齢④電話番号
 ⑤性別を明記(4名分まで可能)
 の上10月20日(土) 必着〔抽選〕



申込み用QRコード

毎週
日曜は

『ガイドウォーク』の日!

10月は7日、14日、21日、28日です。
 28日午前は館長がご案内します。

開催時間: 10:00～11:30
 13:30～15:00



今月のガイドウォークのテーマは
「たねの旅立ち」



森のちいさなアトリエ

準備してある材料を使って、誰でも自由にクラフトが作れます。
 10・11月は
 くるみ・クラフトです。



ヤマツツジの丘からヨシの湿地へ通じる橋が老朽化のため、しばらくの間通行止めになります。

10月の休館日

1日、9日、15日
 22日、29日

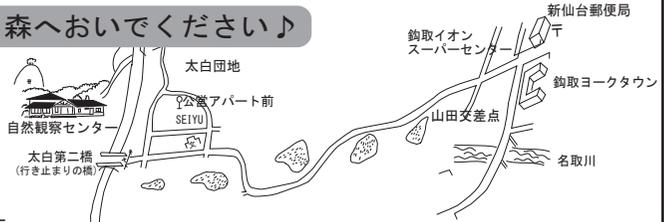
宮城交通バスの場合

- ① 仙台駅 乗車時間 約40分
 - ② 長町駅東口 乗車時間 約30分
 - ③ 八木山動物公園駅 乗車時間 約10分
- 【行先】①②③ 「太白団地經由山田自由ヶ丘車庫行」乗車
 (※③のみ乗車可「太白団地、山田自由ヶ丘經由山台南ニュータウン行」)
 いずれも 公営アパート前 下車→徒歩15分

お車の場合

国道286号線の山田交差点から太白団地方面へ、
 道々の案内板に従って約10分で駐車場へ。徒歩5分でセンター

♪森へおいでください♪



自然観察の森の最新情報、
**「森のおくりもの」バックナンバーは
 Webで!**

2018年10月号(毎月1回5日発行)

発行:(公財)仙台市公園緑地協会

編集:仙台市太白山自然観察の森 自然観察センター

〒982-0251 仙台市太白区茂庭字生出森東36-63

TEL: 022-244-6115 FAX: 022-244-6133

E-mail: taihakusan_moushikomi@sendai-green-association.jp

「社のひろば」URL: <http://www.sendai-park.or.jp/web/info/taihakusan/index.html>